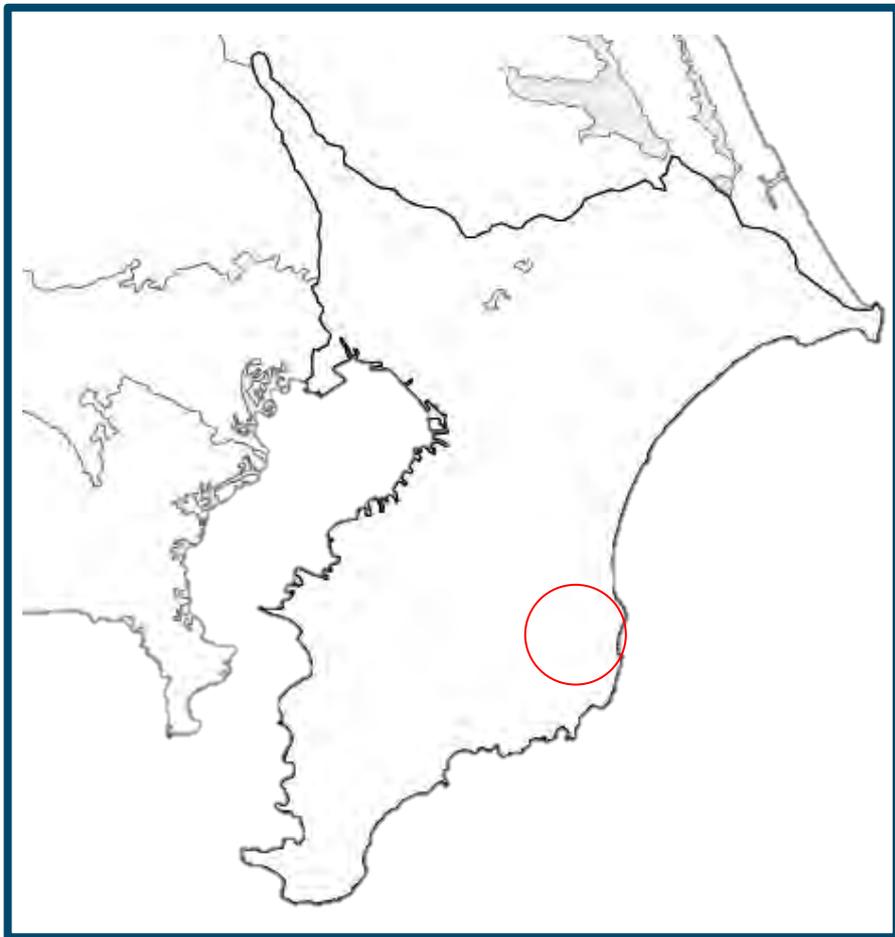




千葉県いすみ市

自然と共生する地域づくりと
有機農業、学校給食

■いすみ市の概要



千葉県いすみ市

房総半島南東部に位置する
人口約35,000人のまち。

都心から70km圏内にあるが、
開発の影響から逃れたことで、
希少生物も多く、自然の恵み
豊かな里山・里海地帯である。

近年は、世代を問わず移住者
に人気がある。

■ 里山と里海をつなぐ夷隅川(いすみがわ)

里山エリア

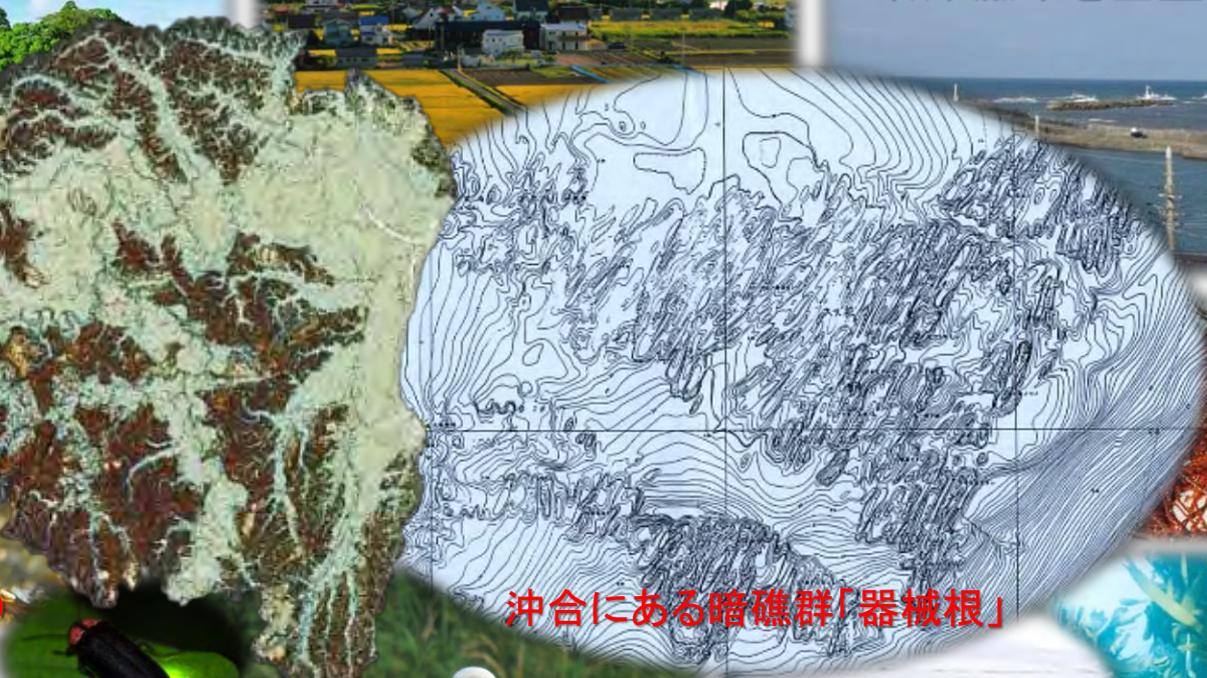
水田農業を基盤とする地域

里海エリア

沿岸漁業を基盤とする地域



ミヤコタナゴ (絶滅危惧種IA類)



沖合にある暗礁群「器械根」



■千葉県いすみ市における有機農業推進の経緯

- 2012年 コウノトリの兵庫県豊岡市をモデルに「生物多様性」と「水稻」の2部門による協議会を設立
会長を副市長、副会長をJA組合長、事務局は農林課
この時点で地域における有機農業者はゼロ
- 2013年 手探りの水稻無農薬栽培に挑戦するも失敗
- 2014年 水稻有機栽培の実証事業(3年間)開始
民間稲作研究所、県普及指導員、JA、市が連携
- 2015年 生産された有機米4トン为学校給食に導入
- 2017年 学校給食の全量にあたる42トンの有機米を提供
有機JAS認証取得開始 産地を形成
- 2018年 同協議会に有機野菜部門を設置
学校給食に向けた有機野菜の生産と産地化の取組を開始

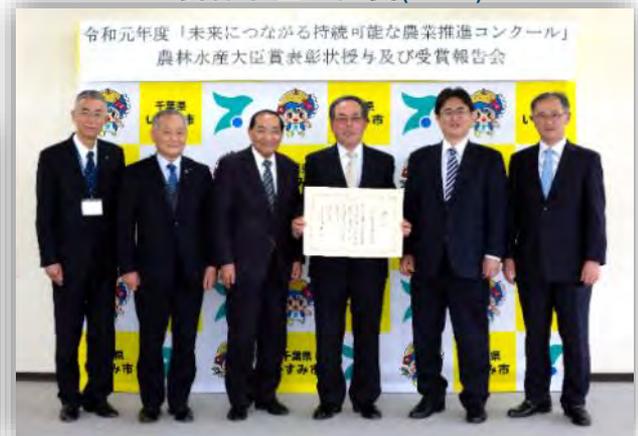
有機農産物の学校給食利用とその成果

- ・有機農業者ゼロから4年で産地を形成
- ・学校給食における残食の減少
- ・イメージアップと認知度向上
- ・移住者の増加
- ・農産物のブランド化
- ・農業所得の向上
- ・新規就農希望者の増加
- その他

JALファーストクラス機内食(2016)に採用



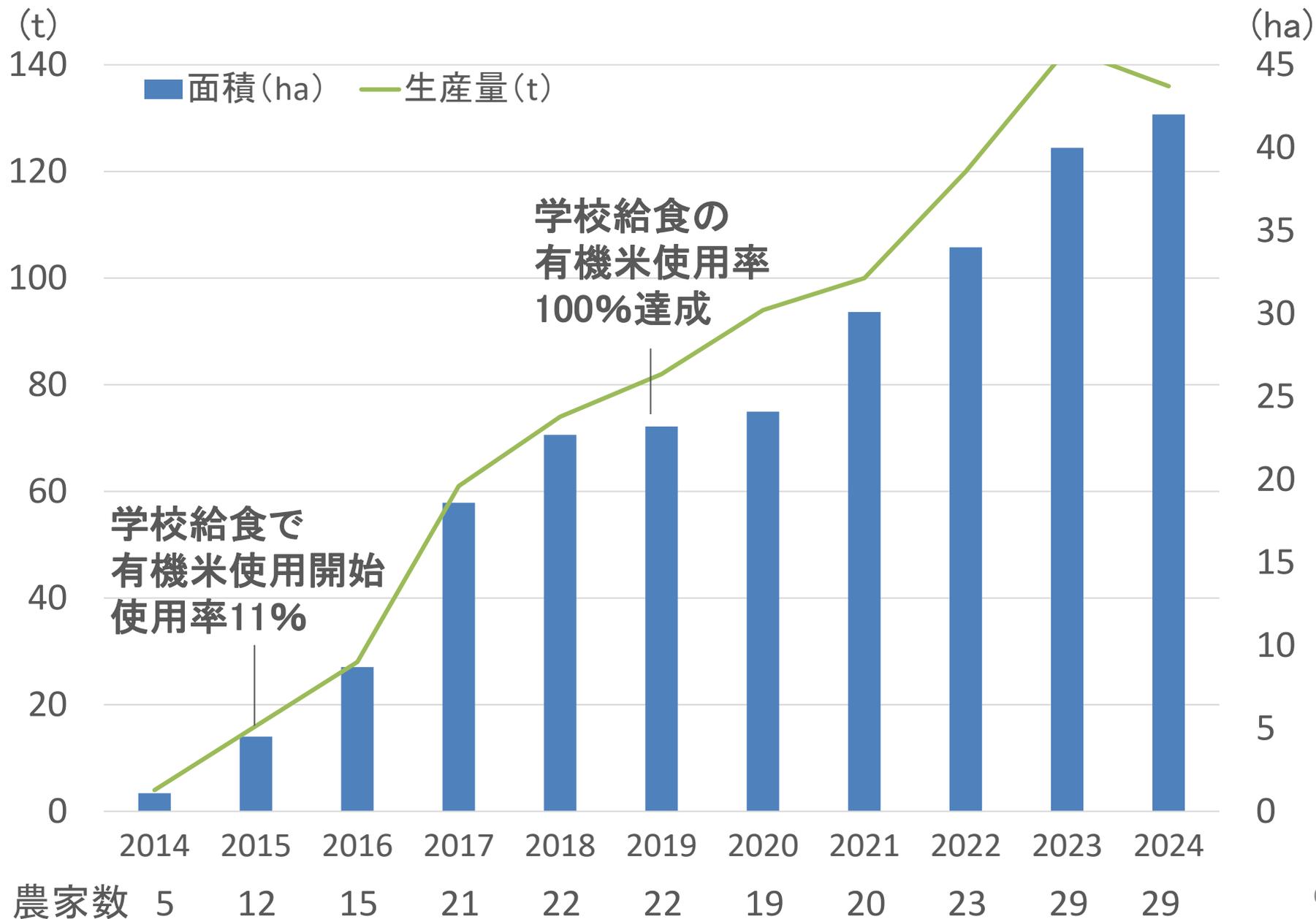
未来につながる持続可能な農業推進コンクール 農林水産大臣賞(2020)



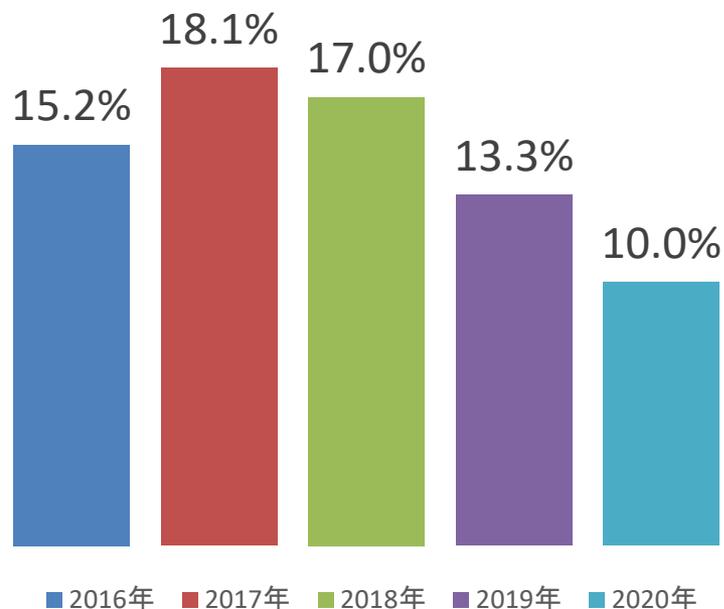
辻静雄食文化賞(2020)



有機米生産の推移(いすみ市)

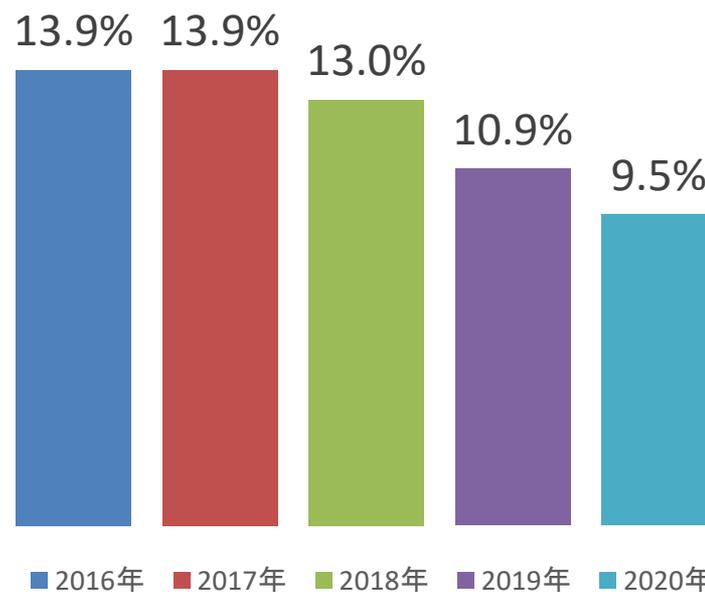


学校給食主食(ごはん)の残菜率(年平均)



給食全体の残食も年々減少

学校給食全体の残菜率(年平均)



有機の給食を本格的に
はじめてから(2017年10月)
ごはんの残食が年々減少

住みたい田舎ベストランキング発表！ 田舎暮らしの本

田舎暮らし

2025年2月号
特別定価 990円

日本全国徹底調査！

2025年版 第13回

住みたい田舎 ベストランキング

新たに移住者増の人気地ベスト100を追加！

人口別・世代別・エリア別&支援・制度など、移住に関する項目を細かく数値化！
「注目のまち」や「移り住みたいまち」がわかる独自データでランキングを発表！

あなたに
とって

最良の移住先はどこ？

四国
地方
DIY&セルフリノベの正解例

移住
Project
転職・就業サポートが手厚いまち
長野県茅野市

表紙写真
ペットタウンとしても機能
安曇野の田園風景が残る村
長野県松川村

別冊付録
サモエド
りんたろう
ファン
BOOK
撮りおろし写真が満載！



↑子育て支援も充実。市内に12校ある小・中学校の給食は、食の安全や食育にも配慮しており、オーガニックのブランド米「いすみっこ」を100%使用。新鮮なオーガニック野菜の使用も開始され、就農希望者の移住相談が増えている。

宝島社『田舎暮らしの本』2025年2月号、
「2025年版 住みたい田舎ベストランキング」

環境に配慮した農産物のブランド化

子どもたちの未来を支えるお米



JAL国内線ファーストクラスのおもてなし
日本各地の名店プロデュース機内食

千葉県
～初秋を彩る地元食材を創作日本料理で～

新JAFAN PROJECT
ALL ABOUT CLUST

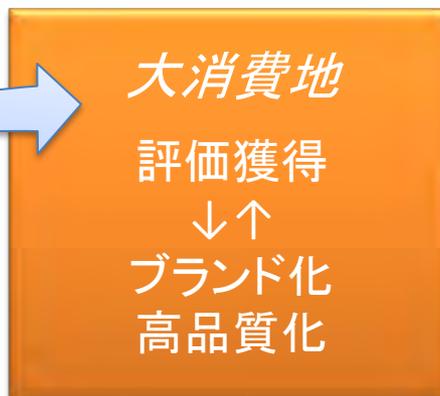
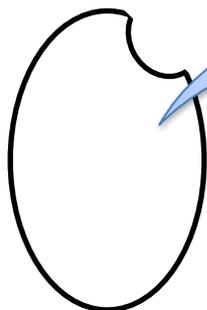


Japan Airlines adopted the rice as in-flight meals of first class (2016)
日本航空ファーストクラス機内食に採用



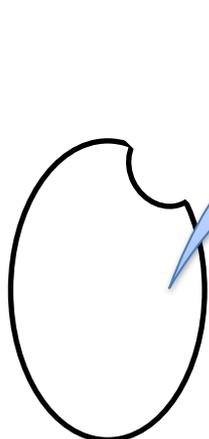
■「いすみっこ」のブランド戦略

強い訴求力は
期待できない



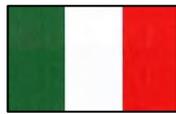
地元での評価を獲得したうえで
それをもとにマーケットにアピールする

より強い訴求力
が期待できる



■世界の給食、オーガニックへ

イタリア



イタリアの有機農産物卸売業者の卸先内訳にあるように、学校給食向けは売上げの26%を占めており、重要な販売先の一つとなっている。学校給食への取り組みは州によって大きな違いがあり、導入が最も盛んなエミリア・ロマーニャ州は、州法によって2歳までの保育園児の給食は100%有機にすると規定している。

「イタリアの有機農産物の現状調査」JETRO2009年3月より抜粋

フランス



*農業・食品業の均等な取引及び健康で持続可能な食生活の推進に関する法律（通称EGALIM エガリム法）

フランスは2022年までに、給食食材のオーガニック(有機)比率を20パーセントにすることを*法律で定める。現在、フランスの学校給食のオーガニック率は、全国平均3パーセント。南仏のムアン・サルトゥー市ではオーガニック率100パーセントを実現している。

サステナブル・ブランド ジャパン2017.12.04より抜粋

韓国



2021年からソウルのすべての小・中・高校で「オーガニック無償給食」が全面施行される。市はまず来年から高等学校のオーガニック食材使用の割合も現在の30%からオーガニック学校給食水準である70%まで引き上げる。市は、オーガニック無償給食がすべての小・中・高1302校に拡大施行されれば、人件費と管理費を含めて年間約7000億ウォン(約700億円)の予算がかかると見ている。

ハンギョレ新聞2018.10.29より抜粋

■EUのオーガニック公共調達

デンマークは2015年、公共調達として学校、幼稚園、病院、介護施設などで提供される食事の90%を有機産品とすることとした。

同じく**スウェーデン**は、2030年までに公共調達の有機産品シェアの目標を60%としている。なお、同目標の実績は、2018年末時点で、コーヒー、紅茶、マメ科植物、種子、穀物、乳製品、卵、魚、その他魚介類などの幅広い農産物や食品の消費ですでに同シェアが50%を超えている。

同様の計画は、**クロアチア、フィンランド、フランス、ドイツ、イタリア、ラトビア、スロベニア**など多くの国で実施されている。

会員募集

全国オーガニック給食協議会が設立されました

近年、急速に関心が高まっている「学校給食の有機化」を全国で実現していくことを目指して、多様な主体の協働による協議会が設立されました。全国の多くの自治体、農業協同組合及び農業関係団体、生活協同組合及び流通、市民団体及び有志者(個人)の皆様、全国オーガニック給食協議会に、ぜひ、ご参画ください。

名 称 全国オーガニック給食協議会

設立時期 令和5年6月

参加区分 自治体、農業協同組合及び農業関係団体、生活協同組合及び流通、
市民団体及び有志者(個人)

活動内容 全国オーガニック給食フォーラムの定期開催

先進自治体視察研修、会員同士の活発な交流など

年 会 費 団体2万円、個人2千円

参加申込 会員参加申込書を、メールかFAX、または郵送にて
下記へお送りください。

申し込んだ後、関係行事や会費納入等のご連絡をさせていただきます。

問合せ申込 いすみ市農林課有機農業推進班 〒298-8501 千葉県いすみ市大原7400-1

seisan@city.isumi.lg.jp TEL0470-62-1515 FAX0470-62-2836

令和6年10月1日現在に、加入いただいている自治体・団体・個人会員数

自治体会員38、農業協同組合及び農業関係団体会員27、生活協同組合及び流通会員26、市民団体会員19、個人会員244



全国有機で元気! オーガニック給食フォーラム



韓国、フランスからの報告

韓国からはカン・ネヨンさんをお招きし、学校給食を小中高校まで無償有機で実施している実情を、フランスからは前田レジーヌさんよりエガリム法（有機農業学校給食推進法）について報告。

農水省から学校給食の予算について説明

農水省の担当課をお招きして、オーガニックビレッジ、学校給食についての具体的な予算内容について説明。

全国各地の市町村長が勢揃い

オーガニック給食をすでに有機で実施している千葉県いすみ市の太田洋市長が実行委員長になり、北海道から鹿児島まで20名以上の首長が参加予定。

各地の市民団体、生協、JA 組合長、オーガニック農業生産者グループが実行委員として参加

新世紀 JA 研究会（代表：三角修 JA 菊池組合長）、各地の生協、全有協、日有研、自然栽培パーティなどの農業者グループなど、多くの団体個人が参加。

●首長が参加する市町村

安平町、石巻市、小山市、塩谷町、秩父市、いすみ市、木更津市、五泉市、佐渡市、松川町、東郷町、吉賀町、南島原市、上峰町、みやき町、山都町、臼杵市、佐伯市、綾町、南種子町、他多数調整中（2022年8月26日現在）

申し込み先

こちらの QR コードを読み込み Peatix（ピーティックス）にてお申し込み下さい。



<https://organicschoollunchforum-1026.peatix.com/>

料金

会場参加 オンライン参加共
1,000円（高校生以下無料）

*ア-カイブ配信あり

定員

会場 1,200名 オンライン 3,000名

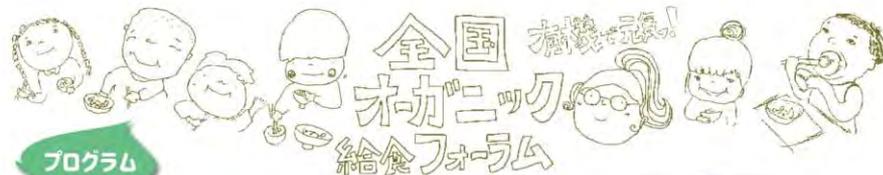
主催 全国学校給食フォーラム実行委員会（委員長：太田洋いすみ市長） 後援：中野区事務局
オーガニック給食マップ：organic.lunch.map@gmail.com

問合せ

- NPO法人 メダカのがっこう 携帯：090-3472-2038（中村陽子）
- 一般社団法人 日本社会連帯機構 携帯：090-4362-7162（飯沼潤子）
- 山田正彦法律事務所 東京オフィス TEL：03-5211-6880 FAX：03-5211-6886（遠藤菜美恵）

10/26 (水)
14:00~（開場13:30）
中野 ZERO 大ホール

プログラムや詳細は
裏面をご覧ください。



プログラム

オープニング：実行委員長挨拶 太田洋いすみ市長
来賓紹介及び挨拶

第1部 「オーガニック給食は世界の流れに」

14:30 前田レジーヌ（翻訳家）フランスからのレポート
カン・ネヨン（慶熙（キョンヒ）大学 兼任教授）
日本の農水省佐藤夏人課長より学校給食予算について説明



太田 洋

第1部



前田レジーヌ



カン・ネヨン

第2部

第2部 「日本でも広がるオーガニック給食」

16:15 日本各地からのビデオレターでご案内します



座談会 「オーガニック給食奮闘記」

ファシリテーター 島村菜津（ノンフィクション作家）

スピーカー 秋山 豊（JA 常陸組組長）

鮫田 晋（いすみ市職員）

杉木悦子（学校給食地産地消費コーディネーター）



島村菜津



秋山豊



鮫田晋



杉木悦子

第3部 「オーガニック給食で何が変わる？」

17:35 リレートーク 鈴木宣弘（東京大学大学院教授）

内田聖子（NPO 法人アジア太平洋資料センター共同代表）

Yae（半農半歌手 / シンガーソングライター）



鈴木宣弘



内田聖子



Yae

クロージング

オーガニック給食宣言

閉会挨拶（18:20終了予定）

フォーラム成功に向けて
賛同者と賛同団体を募集しています。
このフォームに登録をお願いいたします。

個人の方はこちらから 団体の方はこちらから



MAP



全国からなんと4千人もの人が参加した

もっと広がり オーガニック給食!

全国
オーガニック給食
フォーラム

まずは
地産地消、特別栽培から
一歩進んで
オーガニック給食を
実現していきましょう!!

2024

11/8金 9土

第2回 全国 オーガニック給食 フォーラム 開催

@常陸大宮

- 基調講演** 鈴木宣弘氏・堤未果氏
- ★オーガニック給食を実現したJAからの報告
 - ★全国各地の市町村長・JA組合長が勢揃い
 - ★各地の市民団体、生協、JA、有機農業者グループ等が運営委員として参加
 - ★市町村の実務者向け研修会、JA意見交換会
 - ★JA常陸組合長プレゼント 有機米のおにぎりとお有機野菜の漬物

～JAと一緒に給食を変えよう～
オーガニック給食を目指すみんな大集合!!

主催：常陸大宮市オーガニック給食フォーラム実行委員会
協力：全国オーガニック給食協議会、オーガニック給食マップ、NPO法人メダカのがっこう
後援：JA茨城県中央会



全国 オーガニック給食 フォーラム in 常陸大宮

第2回

プログラム

- 11:00 受付開始 会場ではパネル展示物販あり
- 13:00 開会
- ◆基調講演
堤未果氏
「いのちの給食が世界を変える～私たち大人が手渡せるもの」
鈴木宣弘氏
「給食が拓く子どもたちの未来～行政、協同組合の役割」
- 15:00 頃
- ◆オーガニック給食を実現したJAからの報告
- ◆常陸大宮市の事例発表 ～JA業とくしま、JA常陸～
- ◆パネルディスカッション
「子どもたちを守り、地方を輝かせる環境時代の給食とは」
～各地で活躍する女性たちにきく～
ファシリテーター：
長村菜津氏 (シンポジウム司会)
パネリスト：
勝野美江氏 (農林の産直人区長 常陸野馬新報編集長)
野々山理恵子氏 (オーガニック給食マップ事務局 / 常陸野馬新報編集長 常陸野馬新報編集長)
栗田祥氏 (常陸野馬新報編集長)
米山立子氏 (JA常陸常陸支店副支店長)
- 17:30 閉会



堤未果 常陸野馬新報編集長
有機農業に挑戦してこられた
常陸大宮の地産地消の推進者
として活躍されています。



鈴木宣弘 常陸野馬新報編集長
有機農業に挑戦してこられた
常陸大宮の地産地消の推進者
として活躍されています。



長村菜津 常陸野馬新報編集長



野々山理恵子 常陸野馬新報編集長



栗田祥 常陸野馬新報編集長



米山立子 JA常陸常陸支店副支店長

交流会にもぜひ!
11月8日(金)18:30-21:00
@静ヒルズカントリークラブ
【参加費】4,000円 【定員】80名
常陸大宮市産の有機農産物を
ふんだんに使ったお料理あります!

2024年11月8日(金)13:00-17:30
常陸大宮市文化センター ロゼホール 定員1,200名
【参加費】会場：オンライン1,000円 サラライト会場設置5,000円 *アーカイブ動画あり
【主催】常陸野馬新報実行委員会、JA常陸意見交換会実行委員会
【協賛】JA常陸常陸支店、JA常陸野馬新報、JA常陸常陸支店、JA常陸常陸支店、JA常陸常陸支店

翌日は 現地研修会 2024年11月9日(土)9:30-12:00
(株)JA常陸アグリサポート農場 他 【参加費】1,000円【定員】60名
有機野菜栽培現場・有機農産物フェア見学

お申込み
[URL] <https://reg38.com.ne.jp/reg101a75MPPFORM-pdke-moevse-570cc4834cb3a71dd8-042387c74c8c>
締切：11月1日(金)
申込締切後の場合は11月30日(月)まで(お早め)
[QRコード]

賛同者、賛同団体大募集!
▶個人の方はこちら
<https://forms.gle/LWnPKGz6S4QW176>
▶団体の方はこちら
<https://forms.gle/79v4nRk9WdGnK0H9t>
[QRコード]

協賛広告のお申し込み
1口1万円でお値引き
(締切：9月30日)
[QRコード]
<https://forms.gle/7nR8ZzJG4E-C78>

【お問合せ】常陸大宮市オーガニック給食フォーラム実行委員会 (常陸大宮市産業観光部農林振興課内)
電話：0295-55-8072 メール：OrganicSchoolLunchForum.JAPAN@gmail.com

子どもたちに最高の給食を届けたい! 市を挙げて100%オーガニック給食を目指して取り組んでいます。是非常陸大宮市にお越しください。全国でオーガニック給食を推進していきましょう!

PPPと環境破壊から日本の農業と子どもたちの未来を守るためには有機農業しかないという私の信念と市長のオーガニック給食への思いとが響き合って有機農業に挑戦しています。

常陸大宮の地産地消の中で、何ができるか一緒に考えませんか。



学校給食での有機食品を利用している市町村数 (令和2年度～4年度)



出典：農業環境対策課「令和2年度、令和3年度、令和4年度における有機農業の推進状況調査（市町村対象）」

オーガニックビレッジ取組市町村における 学校給食に関する取組状況（令和5年度）

※計画ベースの取組を含む



- 学校給食に関する取組に関する計画がある
- 学校給食に関する取組に関する計画がない

【取組市町村における主な品目】

- ・ コメ（34市町村）
- ・ 野菜（42市町村）
- ・ 果物（4市町村）
- ・ 豆類（4市町村）
- ・ お茶（1市町村）

93市町村のうち既に学校給食で有機食品を利用している
58市町村への聞き取り結果※を集計

※農業環境対策課「令和4年度における有機農業の推進状況調査（市町村対象）」

■ 衰退する水田農業 課題

◆ 米価の下落 (60kg一等米)
1996年 18,300円
2021年 9,500円 約48%下落

◆ 農家の高齢化
65歳以上の割合 いすみ市 76%
全国平均 65%

生産意欲の減退 ⇒ 離農者の増加

耕作放棄地の増加 ⇒ 里山の荒廃

野生鳥獣の増加



景観の悪化



コミュニティの衰退



“田んぼは地域の守り神”

環境と経済が両立する有機稲作

●再生産可能な価格水準

お米の価格(精米5kg) 慣行 1,800円 有機 3,500円以上

●オーガニック需要は拡大傾向

食に対する安全・安心志向の高まり / エシカル消費

有機栽培技術の確立と普及

有機米の販路開拓

達成すれば

産地経営は持続的に

有機稲作→農村環境再生(生物多様性の保全・再生)

教育

学校給食
食農教育 等

交流

オーナー制
交流イベント 等

福祉

農福連携
癒し 等

観光

農泊・農業体験
ツアー 等

広報

移住定住施策
ブランド施策 等

あらゆるまちづくり分野に活かして、地域活性化を図る

自然と共生する地域へ いすみ生物多様性戦略の策定

「いすみ生物多様性戦略」の7つの対策の柱と重点事業

市民の皆さんから寄せられた生物多様性にかかわる課題と取組に関するご意見（463件）をもとに、7つの対策の柱を立て、各対策ごとに複数の取組事業（全186件）を策定しました。そしてさらにその中から以下の重点事業（38件）を設けました。

環境改善の分野

1

里山里海の自然・文化の保護・保全

（事業件数41、重点5）

- ◇ウミガメを守り育てる活動の推進
- ◇コウノトリが生息できる自然環境の整備
- ◇国指定天然記念物「ミヤコタナゴ」生息地の保全
- ◇希少生物保護のための基金設立の検討
- ◇夷隅川河口湿地の保全と再生

2

里山里海の放棄・荒廃地の再生・管理

（事業件数48、重点6）

- ◇自然と共生する里づくりモデル水田事業
- ◇自然と共生する里づくり
- ◇環境保全型農業の推進
- ◇環境保全型農業と経済の自立促進・支援
- ◇環境保全型農業基盤の整備促進
- ◇小・中学校での「生物多様性教育」

3

外来生物・野生鳥獣害の防除・管理

（事業件数16、重点2）

- ◇「いすみ市外来生物・野生鳥獣害対策協議会（仮称）」を設置
- ◇千葉県生物多様性センター等との連携・協力

4

地域環境や先人の知恵の学び・継承

（事業件数21、重点5）

- ◇「いすみ生物多様性先人の知恵物語（仮称）」の作成
- ◇いすみ市の生物多様性に関するカリキュラムの開発と各学年の教育課程への位置づけ
- ◇各小学校に水田ビオトープの創出と水田の生きもの観察・調査
- ◇生物多様性の保全と持続可能な里山里海の暮らしについての講座開催
- ◇いすみ子育てジャンボリー（幼児と保護者）の開催

5

生命感じる自立・循環のライフスタイル

（事業件数15、重点3）

- ◇学校給食での有機米・有機農産物の使用
- ◇水田ビオトープ・学区区の子ども自然体験フィールドの確保
- ◇空き家バンクの運営



普及・利用の分野

6

生物多様性を活かした産業創造

（事業件数37、重点12）

- ◇人もコウノトリも暮らせる農村環境整備の推進によるいすみブランドの確立
- ◇食味が自慢の「いすみ米」ブランドの創出
- ◇化学肥料・農薬使用を低減した環境にやさしい農業による農産物のブランド化の推進
- ◇いすみブランドづくりの推進
- ◇新規水産加工品の発掘支援
- ◇加工品の付加価値を高めた水産物のブランド化の促進強化
- ◇食を中心とした新たな観光の推進
- ◇「生物多様性を活かした産業創造懇談会（仮称）」の設置
- ◇都市住民を対象としたツーリズムの推進
- ◇産地直送による全国を視野に入れた消費拡大と販路拡大の検討
- ◇新たな観光資源の発掘といすみブランドの創出・育成・強化
- ◇いすみ市の食材を活用した食事メニューの開発

7

生物多様性を担う組織・拠点の設置

（事業件数8、重点5）

- ◇生物多様性いすみステーション（仮称）の設置と運用
- ◇生物多様性いすみステーション（仮称）によるNPOや市民との連携活動促進
- ◇生物多様性いすみステーション（仮称）による千葉県生物多様性センターやいすみ環境と文化のさと、大学、研究所などとの連携
- ◇生物多様性いすみステーション（仮称）による「庁内いすみ生物多様性戦略連絡会議」の運営
- ◇いすみ生物多様性戦略にかかる施策の推進



市民の役割

市民の方々には、生物多様性の恵みが私達の生活を支えていることを理解し、生物多様性に配慮したライフスタイルを実践することが望まれます。また、家族や特に子どもたちへ自然の大切さを伝え、自然や生きものとのふれあいの場づくりをはじめ、地域内外でのさまざまな生物多様性の保全・再生の活動に参加することが期待されます。

■まち一体となり、環境と経済の両立する地域の実現へ

いすみ生物多様性戦略 2015年策定

自然と共生する里づくり連絡協議会 2012年設立

会長:いすみ市副市長 副会長:JAいすみ組合長

自然環境保全・生物多様性連絡部会 2012年設置 事務局:いすみ市農林課

環境保全型農業(水稻)連絡部会 2012年設置 事務局:いすみ市農林課

地域経済振興連絡部会 2013年設置 事務局:いすみ市水産商工観光課

有機野菜連絡部会 2018年設置 事務局:いすみ市農林課

先導的プロジェクト 有機稲作の推進 2014年～
有機園芸の推進 2018年～

コミュニティ



- 環境創造活動のシンボル
- 生物多様性保全の指標種

◆協議会の主な取組

食・農・環境教育

ブランド化推進

普及・啓発

体験活動

都市農村交流

実証試験

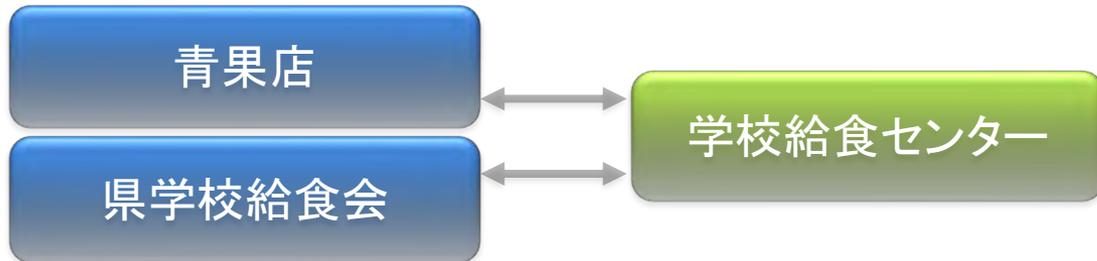


有機野菜も学校給食に 2018年～



■学校給食へ地場産有機野菜を導入

通常の給食野菜の流れ



青果市場の野菜が安定的に供給されるシステム

→地産地消は県内産がメイン

→**地元野菜は供給できない!**

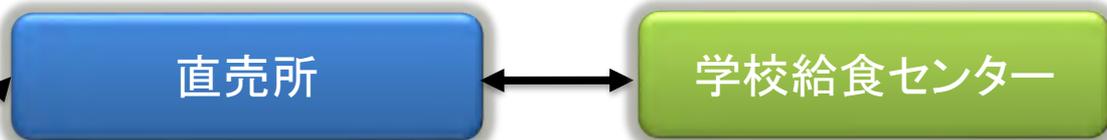
学校給食有機野菜供給体制構築事業 2018年～

○給食センターの現体制を変えずに、**無理なく使用できる品目から優先**

2021年度は、有機ニンジン、有機コマツナ、有機メークイン、有機タマネギ、有機ニラ、有機ネギ、有機ダイコン、有機キャベツ

いすみ産有機野菜の流れ

品目選び～作付け、納入まで、定例会で協議



作付け・出荷調整会議



一括配送

自然の力をそのまま野菜に

いすみそだち

いすみそだち 野菜の主な特徴

- 地域由来の資源
(堆肥や緑肥など)を用いた土づくり
- 栽培期間中における
化学合成農薬と
化学肥料の不使用
有機JAS規格で使用を認められた
農薬を使う場合があります
- 遺伝子組み換え技術
の不使用

「いすみそだち」は、自然と共生する里づくり連絡協議会(事務局:いすみ市農林課)が行う、
いすみ市独自の認証制度です。有機JAS登録認証機関のご協力により、認証審査を行っています。

お問い合わせ先

いすみ市役所農林課有機農業推進班 TEL 0470-62-1515



認証マーク



いすみ市について | いすみそだちについて | 生産者紹介 | 取扱先一覧 | よくある質問 | お問い合わせ



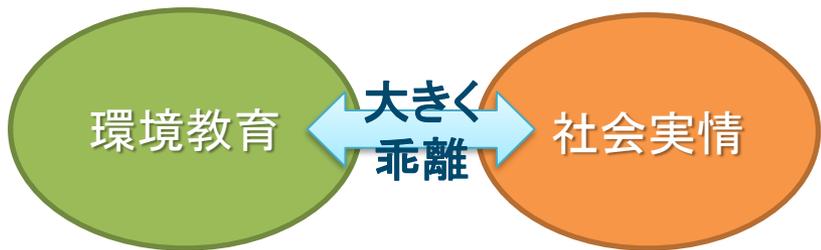
公式HP

■いすみ教育ファーム「田んぼと里山と生物多様性」

「環境」と「農業」と「食」を一体的に扱う教育プログラムを開発
一年間で30時限(15テーマ×2時限)を扱う



◆従来の教育
「環境教育」と「食育」と「農業体験」が
一体的に扱われていない
→農業の多面的価値を理解できない



◆いすみ市の食・農・環境教育
→健全な環境が、自身の健康と健全な社会を保障している



いすみの 田んぼと里山と せいぶつたようせい 生物多様性



「いすみの田んぼと里山と生物多様性」編集委員会 編・著

5. 田植えをしよう

一般的なお米づくりでは、稲の葉っぱが2.5枚ぐらい出た草丈12cmぐらいの苗で田植えをします。

「いすみっこ」のお米づくりでは、除草剤や殺虫剤を使わないため、苗を大きく、丈夫に育てないと雑草や害虫に負けてしまいます。

そのため、稲の葉っぱが4.5枚ぐらい出た草丈15cmぐらいの大苗で田植えをします。

現在の田植えは田植機で行うのが一般的ですが、みなさんが田植えを体験する場合はどれも手で植えるやり方で行います。

農家の人といっしょに実際の田んぼで田植えをする方法や学校内にあるミニ田んぼで田植えをする方法、バケツ田んぼで田植えをする方法があります。



写真1:「いすみっこ」の苗

田んぼでの田植えのやり方

田植えは、風があまりなく晴れたあたたかい日に行うのがよいです。このような日に田植えをすると植えた苗が早く根付き、すぐに成長していきます。

田植えのポイント～植えるまえに作業のポイントをよく確認しよう

① 30cm ぐらいの一定間隔で植えていきます。

間がせますぎると、稲の成長とともに根がからみあったり、肥料をうばい合ったり、光をうばい合ったりと稲同士がけんかしています。風通しも悪いので、稲が病気になるやすいです。

また、苗の列はまっすぐになるように植えましょう。列が曲がってしまうと稲刈りの時に苦労します。あらかじめ30cm ぐらいの間隔に植え付けの目印をつけたロープを使って、植えていきます。

② 1か所に植える本数は3本程度、深さは3cm ぐらいにします。

込み合ってしまうと、1本1本に十分に光が当たらなくなります。

浅く植えすぎると、苗が抜け水に浮いてしまいます。

深く植えすぎると、株わかれがうまくできず成長がおくれてしまいます。

苗の根元を親指と人差し指と中指をまっすぐにしてはさみ、第一関節が土に埋まるぐらいにさし、苗を置いてくるように指だけを引き抜くとうまく植えられます。

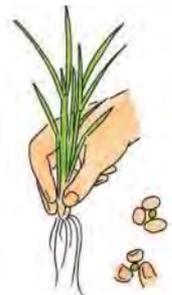


図: 苗の持ち方

③ 苗を1か所植えたら、次の場所に前進します。

この時、かかとから足を抜くようにするとうまく泥から足を抜くことができます。

植え方には、前に進むやり方と後ろに下がりがながら植えるやり方があります。

5本以上植えてしまうと、稲が成長したとき株が

②カエルは田んぼの守り神

田んぼとのそのまわりにいるカエルは、アマガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアカガエル、トウキョウダルマガエル、ヒキガエルなどです。

稲の葉っぱや茎に害をあたえたり、稲の実から養分をすい取ってしまう害虫、そんな害虫を食べてくれるのがカエルたちです。

特に、春から秋にかけてさかんに虫を食べます。

小さな虫であれば、1匹のカエルが食べる数は数百匹にもなると言われています。



図3：アマガエル

【計算してみよう】

田んぼに300匹のカエルがいたとしたら、このカエルたちによって何匹の昆虫（害虫）が食べられていなくなるのでしょうか。

1匹のカエルが春から秋にかけて食べる害虫の数を200匹として計算してみましょう。

生物多様性による害虫の防除

カエルがたくさんいれば何万匹もの害虫を食べてくれます。その他にもクモやトンボ、さらにトカゲや鳥なども害虫を食べてくれます。

生物多様性があれば、農薬をまかなくても害虫のひ害をおさえることができるのです。稲の害虫であるカメムシが大発生したとしても、この時カメムシを食べてくれる生物がいれば、害虫（カメムシ）の数を減らしてひ害をおさえることができます。

このように生物多様性が豊かである（いろんな生物がいる）と、害虫は多く発生しません。

このことを、「生物多様性による害虫の防除」といいます。

田植え体験



校庭に田んぼ作成

イトミミズ

生きものと共生

生きもの調査



稲刈り体験



校庭に稲架かけ





伝統的な農作業を体験

農業機械の進化を学ぶ



羽釜炊飯



おにぎり作り

今年も小学生の収穫体験と 11/29

12/6 管理栄養士と生産者のお話し会をしました!!



まずわりすみ市産
次は千葉県産
次は国産の順に
えらんていきます!!



こっちのダンドリでワタワタしてたら
こっちのダンドリにはなかつた
小学生のあいさつに感動〜!!!
おばちゃん泣いちゃうよ〜



子どもたちが楽しんでると大人たちはうれし〜♡



今回は
大根とにんじんは
おみやげに
長ねぎは
給食のマーボー豆腐
になったよ!!

■子どもたちが成長し、やがて築く未来の食卓と、未来の食卓に支えられる環境・農業・地域に私たちは期待しています



ご清聴ありがとうございました

●テレビ

報道特集 TBSテレビ 有機農業の未来は？ 2022年9月17日放送

<https://www.youtube.com/watch?v=dahwfsI3Mh8>

NHKスペシャル シリーズ食の“防衛線”第1回主食コメ・忍び寄る危機 2023年11月26日放送

<https://www.nhk.jp/p/special/ts/2NY2QQLPM3/movie/>

●映画

『いただきます ここは、発酵の楽園』オオタヴィン監督

https://www.youtube.com/watch?v=Xs8PUCO_zMc

『食の安全を守る人々』原村正樹監督

<https://kiroku-bito.com/shoku-anzen/>

『希望の給食－食と農がつむぐ自治と民主主義』香月正夫監督

<http://www.parc-jp.org/video/sakuhin/kyushoku.html>

『静かな汚染、ネオニコチノイドー浸透性農薬は〈いのち〉に何をもたらすのか？』山口勝則監督

<http://www.parc-jp.org/video/sakuhin/neonic.html>

『サステナ・ファームトキと1%』川上敬二郎監督

https://www.tbs.co.jp/TBSDOCS_eigasai/

『夢みる給食』オオタヴィン監督

<https://www.mirai-lunch.jp/>

●YouTube

『有機米100%のオーガニック給食 千葉県いすみ市の挑戦』次代の農と食をつくる会

<https://www.youtube.com/watch?v=LkhFCFj1Of0>

『学校給食に地場農産物、有機農産物を導入した秘訣・工夫とは？』maffchannel(農林水産省)

<https://www.youtube.com/watch?v=8ubV4JjnPg8>

●書籍

『有機農業のチカラ コロナ時代を生きる知恵』大江正章 著 コモンズ

『有機農業はこうして広がった』谷口吉光編 著 コモンズ

『有機給食スタートブック』靄理恵子・谷口吉光編 著 農文協

『いすみ市における有機米の学校給食使用と有機米産地化の取組に対する自己分析』鮫田晋

●受賞歴

令和元年度 未来につながる持続可能な農業推進コンクール(農林水産省) 農林水産大臣賞

第11回辻静雄食文化賞 (辻静雄食文化財団) 2020年